



▲システム移行を進めた最知副施設長(左)と木村事務長(右)

i Padを使ったクラウド型介護支援システムを販売するグッドツリー(仙台市泉区)は、東北を中心に利用事業者を増やしている。平成24年度には、宮城県が優良なソフトウェアとして販売の支援を行う「みやぎ認定IT商品」の一つに選定された。使いやすさと低コストを武器に販売エリアを広げている。

タッチパネル端末活用
間接業務の時間軽減

で時間を取られるといったことは無い。動線効率も考慮されている。

宮城県黒川郡にある老健「羽生の丘・オーベルジュ」。全個室、1ユニット6から10人で構成される。約9000坪の土地に14あるユニットは、それぞれが独立した平屋の建物となっている特徴的な設計だ。

同施設では今年4月、更なる効率化を図るため、これまで利用してきた介護支援システムから、グッドツリーが提供するクラウド型の「ケア樹・老健版」に切り替えた。

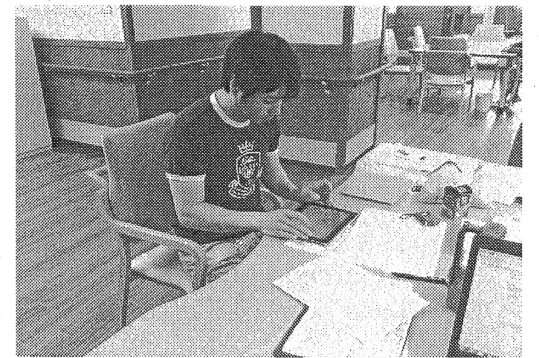
スタッフが1人につき1ユニットを担当するが、2つのユニット毎に向かい合わせで立地しているため、平屋で広大な施設でありながら、移動

ユーザー管理、アクセス管理、ト・ケアプラン、サービス提供

グッドツリー(仙台市)

タッチパネル端末導入の抵抗少なく

クラウド型介護支援システムに導入するなどの手間があったが、iPadを用いることで、記録するところができるようになる。これにより間接業務の作業時間が大幅に短縮され、スタッフの残業時間削減や入居者に対応する時間を増やすことができるなどの効果を生む。しかし、介護事業者が少なくない(最知氏)



▲タッチパネルで簡単に操作できる

クラウド型で運用費60%減

に限らずに言われることだが、企業が基幹システムを変更することにはさまざまなリスクを伴う。移行期間中の不具合や、すべてのスタッフが新システムに慣れるまでに時間がかかる他、精神的な負担も大きい。

クラウド型でデータの損失リスクを回避する。紙ではなくデータで保存しておくことで、退去した方であってもデータをいつでも確認することができま

「ケア樹」はiPadを活用したシステムで、各マスタ管理、利用管理、サービス管理、サビス実績、総計、介護請求などで、介護事業者が利用する機能のほとんどを網羅する。これまで紙に記録し再度パソ

「完全にシステムを移行してから半年程度ですが、作業効率は確実に上がっています。事業所としての契約のため、端末や利用人数が増えなくても追加料金は発生しません。現在、iPadは20台導入しています。以前のシステムは5年単位の長期

データ損失リスクを回避する。隣地には昨年開業した、グループ法人が運営する「特別養護老人ホーム ウィング」がある。この施設でも「ケア樹・特養版」を導入している。

金原秀介課長は「BCPの観点からもグッドツリーは所在地の宮城から東北を中心に販売地域を広げ、九州の事業者にも導入が決まった。年内に訪問介護・居宅支援版の2種を販売予定で、特養・老健・サ付き住宅・デイ向けなど合計10種を揃えることになる。」

2013年10月2日発行の高齢者住宅新聞(第273号)に介護業務支援サービスケア樹導入事例についての記事が掲載されました。

